

膵管内乳頭粘液性腫瘍切除に関する研究

分担研究者 平川 弘聖 大阪市立大学教授

研究要旨：浸潤型の膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）を有する患者に対する切除の妥当性を検討した。浸潤型膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）の予後は、癌の浸潤距離が10mm以下と10mm以上で有意に異なった。また、10mm以上の浸潤を示す浸潤型膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）予後は、膵癌の予後と有意差がなかった。膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）と粘液嚢胞性腫瘍（MCN）に関する国際診療ガイドライン（2012年）に示されている「high-risk stigmata」に属す腫瘍は手術されるべきである。

A．研究背景と目的

浸潤型の膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）は通常型膵癌に比べ予後が良いとの報告があるが、浸潤距離の観点からの報告は少ない。この研究の目的は、浸潤距離の観点から浸潤型IPMNの性質を調べることである。それに加えて、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）と粘液嚢胞性腫瘍（MCN）に関する国際診療ガイドライン（2012年）に示されている「worrisome features」と「high-risk stigmata」の妥当性についての検討もおこなった。

B．研究方法

大阪市立大学で1989年から2013年にかけて切除されたIPMN患者88例につき遡及的に検討した。それら症例を癌の浸潤距離により以下に分類した。T1a（浸潤距離 5 mm以下）、T1b（浸潤距離: 5～10 mm）、T1c and ≥ T2（浸潤距離: 10 mm以上）。また、術前に画像により、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）と粘液嚢胞性腫瘍（MCN）に関する国際診療ガイドライン（2012年）に示されている「worrisome features」と「high-risk stigmata」の妥当性についての検討も行った。

C．研究結果

浸潤型膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）の予後は、癌の浸潤距離が10mm以下と10mm以上で有意に異なった。また、10mm以上の浸潤を示す浸潤型膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）予後は、膵癌の予後と有意差がなかった。5mm以上の浸潤を示す浸潤型膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）は、全て膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）と粘液嚢胞性腫瘍（MCN）に関する国際診療ガイドライン（2012年）に示されている「high-risk stigmata」に属していた。

D．考察

膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）と粘液嚢胞性腫瘍（MCN）に関する国際診療ガイドライン（2012年）に示されている「high-risk stigmata」は妥当と考える。

E．結論

膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）と粘液嚢胞性腫瘍（MCN）に関する国際診療ガイドライン（2012年）に示されている「high-risk stigmata」に属す腫瘍は手術されるべきである。

G．研究発表

1. 論文発表

1. Kimura K, Amano R, Nakata B, Yamazoe S, Hirata K, Murata A, Miura K, Nishio K, Hirakawa T, Ohira M, [Hirakawa K](#). Clinical and pathological features of five-year survivors after pancreatectomy for pancreatic adenocarcinoma. World J Surg Oncol. 2014 Nov 27;12:360.

2. Hirata K, Nakata B, Amano R, Yamazoe S, Kimura K, [Hirakawa K](#). Predictive factors for change of diabetes mellitus status after pancreatectomy in preoperative diabetic and nondiabetic patients. J Gastrointest Surg. 2014 Sep;18(9):1597-603.

2. 学会発表

1 主要動脈浸潤を伴う局所進行膵癌に対する化学放射線療法後の外科切除の意義
天野良亮、木村健二郎、山添定明、平田啓一郎、永原央、豊川貴弘、久保尚士、田中浩明、六車一哉、大谷博、八代正和、前田清、仲田文造、平川弘聖（OP-009 第114回日本外科学会定期学術集会）日本外科学会雑誌 115（臨時増刊号_2），328，2014-03-05）

2 Significance of Ductal Region in Anaplastic Pancreatic Cancer. K. Miura, K. Kimura, R. Amano, S. Yamazoe, G. Ohira, K. Nishio, M. Shibutani, K. Sakurai, H. Nagahara, T. Toyokawa, N. Kubo, H. Tanaka, K. Muguruma, H. Otani, M. Yashiro, K. Maeda, M. Ohira, K. Hirakawa.

APA/JPS 45th Anniversary Meeting November 5-8, 2014 Hawaii, Meeting Proceeding p29, P1-51.

3 Importance of the Invasive Distance in Invasive IPMN as a Prognostic Factor. K. Kimura, R. Amano, S. Yamazoe, K. Miura, G. Ohira, K. Nishio, M. Shibutani, K. Sakurai, H. Nagahara, T. Toyokawa, N. Kubo, H. Tanaka, K. Muguruma, H. Otani, K. Maeda, M. Ohira, K. Hirakawa.
APA/JPS 45th Anniversary Meeting November 5-8, 2014 Hawaii, Meeting Proceeding p40, P2-80

4 Persisting Elevation of Postoperative CRP Predicts Outcome of Patients with Curative Distal Pancreatectomy for Pancreatic Cancer. S. Yamazoe, R. Amano, K. Kimura, K. Hirata, K. Miura, K. Hirakawa.
APA/JPS 45th Anniversary Meeting November 5-8, 2014 Hawaii, Meeting Proceeding p47, P3-46.

H .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)
なし。